



日海不二サッシ株式会社 様

(所在地：石川県金沢市)

Case Study

Key Word

COBOL(コボル)

1959年に事務処理用に開発されたプログラミング言語。「Common Business Oriented Language」(共通事務処理用言語)に由来。事務処理に特化し、信頼性・保守性に優れている一方、技術者不足などの課題もある。

オフィスコンピュータ(通称：オフコン)

オフィス業務用として1960年代に作られはじめた事務処理に主眼を置いた小型コンピュータのこと。各メーカーによる独自設計が用いられている点が特徴である。

クラウド・ファースト

情報システムの設計や移行に際してクラウドサービスの採用を第一に検討する方針のこと。

特に、システムの運用基盤として外部企業が運営するサービスを採用し、その上に独自のアプリケーションを構築し運用するシステム形態を優先的に検討すること。

【クラウド活用のメリット】

1. 投資の最適化

運用に伴うコストを固定費から変動費に転換できる。

2. 事業継続性の向上

災害・火災などによる業務停止リスクを軽減できる。

3. 運用要員の負荷軽減

システム管理者の工数を削減できる。

COBOL 資産のクラウド移行～リスク回避と管理工数削減～



日海不二サッシ株式会社 総務部 総務グループ
総務グループ長 山下 篤 様 (左)
システムチーム長 中野 裕夫 様 (右)

1958年に設立された日海不二サッシ株式会社様は、石川県金沢市に本社を構えます。同社は不二サッシグループの北陸地区での製造・販売拠点としてビルサッシや住宅サッシ、アルミ形材、精密加工品の製造・販売・施工をされています。

昨年で60周年を迎えられた同社は市場動向や顧客ニーズの把握、たゆまぬ研究・開発体制、経験豊富な技術により機能と品質を追及した製品を提供されています。

本号では2015年に実施されたCOBOL資産のクラウド移行についてお話を伺うため、山下様、中野様のもとを訪ねました。(以下敬称略)

当初からクラウド型の採用をお考えでしたか？

中野：いいえ。実は導入型を中心に検討していました。一方のクラウド型は将来的に見据えていましたが採用するのはまだ先のことだと、当初は考えていました。

クラウド型を採用された背景を教えてください。

中野：オフコン運用を継続する方針のもと、導入型とクラウド型の両方を検討していましたが、グループ会社全体に目をやると、特に関東地区を中心としたクラウド・ファーストの動きが活発に進められていたのです。

北陸では時期尚早と捉えていた私たちの自然災害に対する備え意識の低さを感じました。これが改めてクラウド型を見直すきっかけになり結果的に採用に至りました。

クラウド型の採用に不安はありましたか？

中野：はい。当時、オフコンクラウドサービスとして日本海側では先駆的な事例だったので、一番の不安はレスポンスでした。正直、導入型のレスポンスに慣れたユーザーからはクレームが出るかと考えていました。

山下：当時、私はユーザー部門に所属していましたがシステムのレスポンスが悪い時にはすぐにシステムチームへ電話連絡していました。

不安はどのように解消されましたか？

中野：HCSさんからトライアル制度を提案いただき、実レスポンス環境下でテストすることができました。

オンラインでの対話処理は若干の遅延を感じましたが想定よりも悪くなく、十分実用に耐えられるものでした。

実際にユーザーによる運用テストでも同様の評価だったため、安心して切り替えられると確信しました。

クラウド型へ移行されていかがでしたか？

中野：正直当初は「ダメなら導入型に戻せばいい」と割り切っていた面もあり、切替後も「こんなもんだらう」と社内に馴染んでいきました。

ちなみに月次処理などのバッチ処理は、格段に高速になり処理待ち時間が半分以下に短縮された想定外の効果もありました。

最後にコメント、アドバイスをお願いします。

中野：機器保守から解放されたことも大きな評価点です。毎日のタイマー起動・バックアップに始まり、悪天候時の対応や計画停電時の休日勤務も無くなり心身的にも時間面でも負担が減りました。昨今の自然災害を目にし、北陸でもクラウド・ファーストの意識はますます高まるものと思いますが、今振り返るとあの時早くやって良かったと実感しています。

山下：トライアル時にスキルの高いユーザーに検証や評価を依頼し、良い面も悪い面も洗い出したうえで本番切替できたことがユーザー部門目線では大変良かったと思います。

本日は、貴重なお話、ありがとうございました。



日海不二サッシ株式会社
FUJI SASH
窓から夢を -Dreams through a window-

Trend

消費税率 10% 改正・消費税軽減税率 押さえるべき4つのポイント

消費税率10%改正・消費税軽減税率が2019年10月1日に施行されます。ご準備は進めていらっしゃいますでしょうか？
ご利用中のシステムや運用の変更、契約時期、補助金の活用についてお問合せ・ご相談はお気軽に弊社まで。

1. 経過措置

- (1) 税率引上げ施行日の半年前（**2019年4月1日**）を『**指定日**』とする。
- (2) 指定日より前に契約した場合、**請負工事**（ソフトウェア開発含む）には**旧税率（経過措置 8%）**が適用される。
- (3) 「**経過措置 8%**」と「**軽減税率 8%**」は区分として**別管理が必要**となる。（国税、地方税の配分が異なるため）

2. 軽減税率

- (1) **飲食料品**（外食、酒類除く）と**定期購読が締結された新聞**（週2回以上発行）が対象となる。
- (2) **請求書の変更**が必要となる。（簡易処置：区分記載請求書等保存方式→適格請求書等保存方式（インボイス方式））
- (3) 将来的には登録を受けた課税事業者が発行する適格請求書等及び帳簿の保存が**仕入税額控除の要件**となる。

3. 業務変更

- (1) **購買・経理業務**（**会計システム** 複数税率対応、周辺システムとの税率ごとの仕訳データ連携など）
- (2) **請求書発行業務**（**販売管理システム** 区分記載請求書等保存方式、適格請求書等保存方式など）
- (3) **店頭の販売業務**（**レジ・POS レジ** 税率別集計機能の変更、発行レシートフォーマット変更など）

4. 政府支援

- (1) 中小企業庁の**軽減税率補助金**が活用可能
- (2) **複数税率対応レジ**の導入等支援（**A型、事後申請、期限：2019年12月16日**）
- (3) **受発注システム**の改修等支援（**B型、事前申請、期限：B-1: 2019年6月28日、B-2: 2019年12月16日**）

HCSのよこがお



まつばら だいき
松原 大貴さん

（2018年度入社）

システム本部
ソリューションシステム部
富山グループ

Q. 配属後の業務を教えてください。

部内研修を受け、10月からターコイズ販売管理の開発とテストを担当しています。OJTの先輩方から学生時代には無かった観点で原因追及の大事さと手法を教わりながら開発しています。業務で開発したプログラムが正常に動き、上流工程のSEさんに受入されたときは達成感がありますね。

Q. 趣味を教えてください。

ドライブが好きで、休日には北陸3県を中心にその日の気分で出かけています。
最近はスポーツタイプの車に乗りたいと思い、どの車がおススメかと同期や先輩方に話を聞きながら情報収集しています。おススメの車があったら松原へぜひ教えてください。



タイヤ交換は自分でやる派です。

編集後記



あけましておめでとうございます。本年もよろしくお願いたします。本号では日海不二サッシ様からリスク回避と管理工数削減についてお話を伺いました。

迎えた2019年、社員紹介でも話題に出た車の購入にも影響を与える消費増税や新元号など今年もビジネスにおいて多忙な一年となりそうです。「備えあれば憂いなし」ではないですが、防災・お仕事・健康管理についてもしっかり備え、昨年を表す漢字は『災』でしたが今年は『楽』・『幸』・『福』といえるような素敵な一年したいですね。（みずの）



北陸コンピュータ・サービス株式会社

営業本部 ソリューション創造推進室

〒939-2708 富山市婦中町島本郷 47-4
TEL (076)495-9824 FAX (076)495-9843
URL; <https://www.hcs.co.jp>

ISO27001



情報セキュリティセンター
富山センター
金沢センター
国保連合会サービス部

ISO27017



情報セキュリティセンター
富山センター
運用統括グループ

ISO9001



システム本部
情報サービス本部
SIビジネス本部
金融ビジネス本部

お問い合わせ

